

ヤマガラのつがい形成時期について

藤田 薫

横浜自然観察の森 〒247 横浜市栄区上郷町 1562-1

はじめに

ヤマガラ *Parus varius* のつがい関係は一年中保たれ、つがい相手が死なない限り保ち続けられることが多いらしいと樋口 (1976a) は報告しているが、筆者の知る限り、つがい形成の時期についての報告はない。ヤマガラは葉の繁った樹冠を好む (中村 1970) が、このことがつがい関係の観察を難しくさせているためと思われる。筆者は、1991年10月～1993年7月までに、個体識別された1羽の雌が、3または4羽の雄とつがいになったのを観察した。観察例数は少ないが、そのつがい形成の時期について報告する。

調査地および調査方法

調査は、神奈川県南部の「横浜自然観察の森」で行なった。植生などについては、藤田 (1992) に詳しく述べてある。ここでは、1990年以来、今回報告する1993年7月までに、ヒナを含む計79羽のヤマガラに色足環を装着した。捕獲の際に事故で死亡した個体は山階鳥類研究所に送り、雌雄の確認を行なった。ほかの個体の性別は、繁殖期の行動で確認した。観察を頻繁に行なった冬期給餌台と巣箱は、自然観察センターの窓から至近距離にあり、色足環の確認が容易であった。また、保護されたヤマガラの雄1羽を自然観察センター裏で飼育していた期間中、このかごに毎日やってくるヤマガラの色足環も、容易に確認できた。

結果および考察

1. つがい形成の時期

つがい形成が観察ができたヤマガラは、雌1羽と、そのつがい相手と思われる雄1羽、つがい相手ということが繁殖期に確認できた雄2羽と、色足環を未確認の雄1羽であった。以下、本文では、この雌を雌A、つがい相手と思われる雄を雄A、つがい相手と確認できた雄を、つがいになった順に、雄B、未確認雄、雄Cとした。これらの雄が雌と連れだって観察された最初の時期は、それぞれ、10月、3月、5月、8月であった (図1)。

雌Aは、1991年10月15日と12月22日、雌Aと同じ場所で同時に捕獲された。この時、2羽はともに、1991年生まれの若鳥であった。10月15日の時点ですでに行動を共にしており、つがい関係にあったのではないかと思われた。12月22日、雄Aは調査中の事故で死亡した。

雌Bは、1992年3月に、給餌台で雌Aと一緒に採食しているところを度々観察された。1992年4月1日～5月12日には1回目の繁殖をし、雌Bと雌Aはつがいであることが確認された。1992年5月12日、この巣のヒナは捕食され、繁殖は失敗した。

1994年11月25日受理

キーワード：つがい形成、ヤマガラ

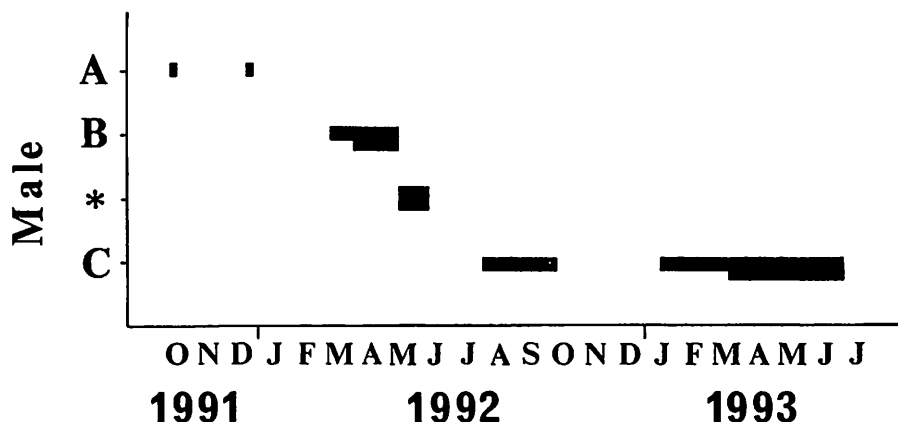


図1. 雌Aの繁殖暦. 線は各々の雄とつがい関係にあった期間を, 太線は繁殖期間を示す.

アルファベットはそれぞれの雄を表す. *印をつけた雄は色足環を未確認のため, 雄BまたはCと同一個体の可能性があった.

Fig. 1. Breeding chronology of female A. Lines indicate the mating period of each male, thick lines indicate the breeding periods. A, B and C indicate each male. (* was an unidentified male which have possibilities of being B or C.)

未確認雄は, 翌日5月13日から雌Aとともに巣場所探しをし, 5日後に巣材を運びはじめ, 6日後に産卵がはじまった. ヒナが捕食された翌日から一緒に行動していたことを考えると, この雄は雄Bであった可能性が高いが, 雄Cや, その他の雄であった可能性も考えられる. なお, Higuchi (1976b)によれば, ヤマガラの抱卵期間は約14日であるが, この巣は抱卵開始後18日目に, ふ化しないまま放棄された.

雄Cは, 1992年8月1日~10月9日のあいだ, 保護していた雄のヤマガラのかごに, 毎日のように, 雌Aとともに威嚇しにきていた. この2羽は1993年と1994年に2回ずつ繁殖し, つがいであることが確認された. したがって, 雄Cが雌Aとつがいになった時期は, 雄Cが未確認雄と同一個体であった場合には1992年5月13日, 別個体であった場合には遅くとも8月1日と推測された. ヤマガラは一年中同じ行動圏を維持していることが多いと樋口(1976a)は報告しているが, 夏期の, 保護鳥への執拗な威嚇を見ると, 非繁殖期も, 侵入者を追い払うのではないかと思われた. その際雌は, つがい雄の喪失後に独身でいるよりも, つがいを形成した方が, 侵入者を追い払いやすいのではないかと考えられた.

2. 再婚相手について

以下に述べるように, 観察場所周辺には, つがい雄のほかに独身の雄が行動圏を持っており, 雌Aの2回の再婚相手は, 雌Aと行動圏が重なっていた雄であった. 最初の再婚相手である雄Bは, 雄Aと雌Aがつがい関係にあったと思われる1991年11月3日に, この2羽と同じ場所で捕獲された. 雄Cは, 雄A, B, および雌Aの捕獲場所から約50m離れた給餌台付近で, 1992年1月10日に捕獲された. 1992年3月, この給餌台では, つがい関係にあった雄Bと雌Aが度々採食したが, 雄Cも数回観察された.

Saitou (1979, 1991)によれば, シジュウカラ *P. major* は冬に群れになるが, 同じ群れの構成員どうしがつがいになることが多く, そのようなつがいは, ほかから来たシジュウカラとのつがいよりも, 繁殖成功率が高い. その理由として, その土地をよく知っているつがいは, 食物や, 好適な巣

場所をうまく見つけることができるためであろうと考察している。ヤマガラは雌も、繁殖成功度を高めるために、行動圏の重なった、その土地をよく知っている雄を選んで再婚している可能性がある。

以上のことから、ヤマガラはつがい形成について、次の2つのことがいえそうである。1つめは、若鳥のつがい形成は、繁殖期直前ではなく、生まれた年の秋に行なわれる可能性がある、ということである。2つめは、つがい相手の雄が死亡などでいなくなった場合、雌は、繁殖期、非繁殖期を問わず、すみやかに、次の雄とつがいになる可能性があり、その際には、行動圏が重なる雄をつがい相手に選ぶ可能性がある、ということである。ただし、今回の報告は1羽の雌に関する観察例であり、ヤマガラに普遍的なものかどうかは不明である。

謝 辞

横浜自然観察の森の古南幸弘氏と観察の森友の会の石井良明氏には、ヤマガラを捕獲した際の記録を、一部使わせていただいた。また、本文にも述べたとおり、山階鳥類研究所には、死亡したヤマガラはの性別を調べていただいた。ここに感謝する。

引用文献

- 藤田 薫. 1992. ヤマガラのさえずり行動の特性. *Strix* 11 : 35 - 45.
- 樋口広芳. 1976 a. ヤマガラの行動圏と番の相手. *鳥* 25 : 69 - 82.
- Higuchi, H. 1976b. Comparative Study on the Breeding of Mainland and Island Subspecies of the Varied Tit, *Parus varius*. *Tori* 25 : 11 - 20.
- 中村登流. 1970. 日本におけるカラ類群集構造の研究 II. 摂食場所. 食物の季節的変動および生態的分離. *山階鳥研報* 6 : 141 - 169.
- Saitou, T. 1979. Ecological study of social organization in the Great Tit, *Parus major* L. IV. Pair formation and establishment of territory in the members of basic flocks. *Yamashina Institute for Ornithology* 11 : 172 - 188.
- Saitou, T. 1991. Comparison of Breeding success between residents and immigrants in the Great Tit. *Acta XX Congresses Internationalis Ornithologici* : 1196 - 1203.

Notes on pair-formation of the Varied Tit *Parus varius*

Kaoru Fujita

Yokohama Nature Sanctuary. Wild Bird Society of Japan. 1562-1 Kamigou-cho, Sakaeku, Yokohama-shi, Kanagawa 247

Mating behavior of a female Varied Tit *Parus varius* was observed in Yokohama, central Honshu, from 1991 to 1993. A female (Female A) born in 1991 mated in the first autumn with a male of the same age (Male A). Female A mated with two different males in 1992. The change of mate occurred after the death of Male A and breeding failure with Male B. This study suggests that the mating of Varied Tits starts in the first autumn and that the

individual that lost its mate promptly finds a new mate regardless of the breeding season. The mate is probably chosen among individuals in the same home range.

Key words: pair-formation, Parus varius